



ま ず ず な

第13号

2017年10月

＜発行＞
泉南市人権啓発
推進協議会

8月20日(日)、文化

ホールにおいて、「非核平和の集い」が開催されました。今年、アニメ映画『この世界の片隅に』を上映しました。

映画の舞台は広島県呉

市。18歳でお嫁に行き、戦争という時代を懸命に、そして明るく生き抜いた一人の女性、すずさんが主人公です。激しい戦闘シーンが描かれている映画ではなく、この時代の普通の日常生活が描かれています。

この映画を通じて、毎日の生活を平然と送ることのすばらしさをあらためて感じる事ができました。だからこそ今、不安な情報ばかりが流れてくる

社会情勢が非常に心配で

なりません。あらためて、あたり前の平和な生活を守り続けなければならぬと感じました。

【参加者の声】

○大声で戦争反対を叫ぶのではなく、ジワーツと心に響く映画でした。何気ない日常の暮らしがどんなに尊いか…。守っていかなければなりません。(70代女性)

○せんそう 可愛い。やりたくない。(7才女性)

○この映画、戦争を知らない私にとって、可愛い・悲しい・つらい話でしたが、人間同士のあたたかさが、



この時代だからこそあったのかなーと感動しましたし、また高齢の両親もこんな戦争の中を生きぬいてきたんだとしみじみ思いました。(60代女性)

○空襲のことを思い出し胸が締めつけられるようでした。あんな悲惨な思いはもうイヤです。世界中の平和を願っています。(80代男性)

○非核平和の集いであるとは知らずに参加しました。非核平和を考えるのに、このような映画の主張は違った面から私たちの考えを前進させるのだと思います。(70代男性)

平和のシンボル アオギリ 植樹から1年が経ちました...

昨年7月20日に、「平和を大切にすることを後世へ」と願い、あいびあ泉南

へ植樹したアオギリ。最初は幹も細く大きな木になるのかと心配でした。昨年は夏は葉が虫に食われ、あわてて消毒しました。台風が近づけば倒れないか気になり、添え木にしっかりとくり付けました。

苗木が少し大きくなるのと、あいびあ泉南の庭では根がはれないし、もともと市民のみなさんに見ていただけのようにということで、正面玄関入り口付近へ移植しました。落葉樹のため、冬の間は葉がすべて落ち、また葉が出てくるの

か心配しましたが、現在たくさんの大きな葉がつき成長しています。このアオギリの成長と共に、いつまでも平和を大切にすることがより広がっていくことを願っています。お近くをお通りの際は、ちょっと足を止めて見ていただけるとうれしいです。



2016/7/20



2017/9/13

平和宣言文（泉南中学校）

私たちは中学校で沖縄について学習しました。沖縄戦のこと、伊江島で起きたこと、ひめゆり学徒隊のこと、HYさんの『時をこえ』という歌を視聴し、たくさんのことを学びました。その中でも、伊江島の集団自決に至った戦時中の考え方やひめゆり学徒隊のおかれた状況は、今の私たちの「当たり前」とは全然違うものでした。つまり、今私たちが当たり前だと思っている生活こそが本当の平和なのではないでしょうか。私たちはその当たり前を守り、次の世代に平和を伝えることをここに宣言します。

- 一つ 戦争は人を不幸にする
- 一つ 戦争は家族をうばう
- 一つ 平和は当たり前のことができる
- 一つ 平和は人々をつなぐ

私たちは自分の事だけではなくて、他の周りの人のことも考えられるような人になりたいです。二度と戦争を起こさないために平和への願いを込めて、千羽鶴アートを作りました。この折り鶴には、戦争のない平和な世の中にしたいという思いを込めました。これを平和祈念のために捧げます。

平成 29 年 5 月 27 日
泉南市立泉南中学校 60 期生一同

中学生からのメッセージ
平和への想い 永遠に...

泉南市内の4中学校では、平成29年度の修学旅行は沖縄へ行き、平和学習を行いました。
この「平和宣言文」は事前学習などを通じて、中学生なりに感じたこと、考えていることを宣言文として、沖縄の地で宣言してきました。



平和への手紙～平和宣言文にかえて～（西信達中学校）

あの日、この場所にいたあなたは、今、どんな想いでいますか。

私たちは、この沖縄の修学旅行にむけて、少しずつ平和学習を積み重ねてきました。そして、あの時何が起きたのかを学びました。そして初めて、自分たちが想像していたよりもはるかに残酷な現実があったことを知りました。暗く、息苦しいガマの中で何か月もすごさなければならなかったこと、外を歩けばたくさんの方が道で死んでいたこと、爆弾が雨のようにふってきたこと。映像で学んだ時には、思わず目をふさいでしまうような光景もありました。苦しかったでしょう。たくさん遊びたかったでしょう。たくさん、笑いたかったでしょう。みんな、本当は心から生きたいと思いながら亡くなっていったのだろうと思うと、つらくて、心が痛くなって、涙が出ました。

あの戦争を、私たちは知りません。だから正直、戦争のことはまだまだ分からないことだらけです。むしろ分からないことの方が多岐がします。だからこそ、知らなければならないと思っています。

ひめゆりの人たちや、戦争を体験した人たちは、戦争の苦しみや、悲惨さを私たちに伝えようとしてくれています。戦争はあってはならないのだということを、多くの人たちに伝えようと必死になって自分たちのつらく、苦しい過去と向き合っています。でも、だんだんと高齢になって、話をするのが難しくなってきたと聞きました。だから次は私たちの番です。

今、平和が当たり前になってきてしまっていて、あなたたちが大切にしてきた「ぬちどう宝」という言葉が忘れられてしまいそうな気がしています。どんな思いで、この言葉を未来に伝えていけばいいのか、少し不安もあります。

でも、絶対に忘れたくありません。沖縄のことを知るたびに、「自分の命を大切にしよう」「今生きていることに誇りを持とう」と思いました。平和で暮らしているのはあたりまえではないことを実感しました。あの日、強く願ったあなたの生きたいという気持ちを、あなたの平和への願いを、「ぬちどう宝」の言葉とともに、私も、伝えていく一人として、しっかりと伝えていきたいのです。

今を生きている人たちはしあわせです。私も、しあわせ者の一人です。だからこそ今を生きるものとして、絶対にあなたたちの死と、想いを無駄にはしません。人間を人間とみていないような戦争をゆるしてはならない、絶対に繰り返してはいけない、そう思います。あの悲劇をもう二度と起こさないために、次の世代へと沖縄の戦争のことを伝え、命をつないでいきます。

そしてこれから一生、戦争のない平和な国を、私たちの手をつくっていきます。だからやさしく見守っててください。

命の重さと、平和の尊さをしっかりと心に刻み、私たちの平和宣言とさせていただきます。

2017 年 5 月 29 日 泉南市立西信達中学校 71 期生一同

一丘中学校 43期生 平和宣言

沖縄と言えば「白い砂浜」「青い海」「いろいろな種類の果物」「日本の南国」という美しく、豊かなイメージがあります。しかし、72年前の沖縄は決して美しい場所ではありませんでした。何故なら沢山の人が亡くなった沖縄戦があったからです。戦争とは、死と隣り合わせの日々が何日も続き、愛する人・家族・友人を一瞬にして失ってしまうものです。そのようなことがここ沖縄でも起こったのです。

自分と同じ十代の子供達が兵士として戦場に駆り出されます。爆弾を抱え自身を武器と化しアメリカ兵めがけて突っ込んでいく「切り込み」がありました。アメリカ兵から逃れるため、真っ暗闇のガマに何日も隠れて生活し、終戦間際には親しい者同士が集まって命を落とす「集団自決」も数多く行われました。私達には決して想像できないような残酷で悲しみにあふれた光景だったと思います。

今、私たちが“平和な時代だな・・・”と感じているこの瞬間にも、世界の各地で戦争が起こっており、沢山の尊い命が犠牲になっています。私達は学校で「平和」について様々な事を学習し、“もう二度とこのような事があってはならない”と強く思いました。そして、戦争を実際に経験された方々が年々減っていく中、一体誰からその悲惨な体験を教わればいいのか？ということも深く考えさせられました。

過去の人達がいたから現在の私達がいる。現在の私達がいるから未来へと歴史が繋がっていく。この事を決して忘れてはいけません。戦争が起こって幸せになる人など一人もいないのですから。

今の平和な生活を続けていくために不断の努力を怠らない。これこそが私達の義務であり、後世に伝えていくべき最大の課題だと考えます。

現在も沖縄には米軍基地があり、毎日のようにオスプレイの離着陸が繰り返されています。決して平和な島とは言えません。しかし、沖縄で起こった惨劇をもっと多くの人達に知ってもらうことで、この伊江島そして、沖縄全土がいつか「基地のない平和な島」に戻ることを私達は心から願っています。

平成29年5月17日 泉南市立一丘中学校 第3学年



平和宣言文 (信達中学校)

今、私たちの目の前には美しい花や透き通った海があります。沖縄にはその風土を生かした独自の文化が栄えてきました。例えば、私たちが体験した独特の踊りであるエイサーや守り神のシーサーなどもその一つです。

観光地として多くの人々が訪れる沖縄ですが、戦時中は地上戦が行われ、花は燃え尽き、海はアメリカ兵で埋め尽くされて、今とは全く違った姿が広がっていました。

沖縄戦は自分たちが想像していたものとは違い、とても残酷なものでした。人々は天皇のために命を捧げ、女性や子どもまでも強制的に戦争にかり出されました。そして戦争によって恐怖を植え付けられました。特に沖縄では、ガマに隠れていた人々はアメリカ兵に捕まるくらいなら自決した方がましだと教えられ、たくさんの人々がガマの中で自決しました。また、戦争に耐え切れず自害した人もいました。家族や友人、大切な人々が亡くなり、心に深い傷を負ったのです。

今の私たちは平和を当たり前のこととしてとらえています。地上戦でたくさんの人々が犠牲になったこと、戦争で私たちと変わらない年代の人たちが亡くなったことも知りませんでした。生きたくても生きることができなかった人たちがいることを知った今、この平和な時代で、自ら命を絶っている人がいることは、とても悲しく思います。

一瞬で沖縄を地獄に変えてしまった戦争。今回私たちは学習を通して戦争が本当に恐ろしいものだと知りました。そして命を無駄にしてはならないと思いました。

戦争はとても怖いものだとして再認識し、戦争を二度と繰り返さないためにも、命の大切さを知るためにも、私たちは過去をもっと知るべきです。

今の平和を守るためには、戦争が起こらないよう、しっかりと1人1人が考えていかなければなりません。

たくさんの人々を傷つけ、苦しめ、多くの命を奪った戦争。そんな無意味な戦争を二度と起こしてはいけなさと胸に刻んでおきたいと思えます。

最後に沖縄戦で亡くなられたたくさんの方々のご冥福を心からお祈りします。

2017年5月20日 泉南市立信達中学校3年生一同



信達校区が 設立されました

校区人権協では、小学校区単位で地域に根ざした人権啓発活動を行っています。毎年、それぞれの校区で小学校やPTAと協力し、校区の集いを開催しています。

子どもたちの目が一斉に舞台の上に…。

yokko(ヨッコ)さんが歌を手話で表し始めました。笑顔で明るく歌う姿を子どもたちは興味深く、そして一緒に歌い、やがて楽しく手話を表現できるとなっていました。



その後、人権擁護委員会・

5月23日、再発足した信達校区人権啓発推進協議会が信達小学校PTAの研修を兼ね開催した校区人権の集い「手話と歌で笑顔になろう」の一コマです。学校の児童の他、多くのPTA地域の方の参加で大成功を納めました。ここ、十年間ほど信達校区

民生委員・老人会・婦人会・福祉委員会等の関係各団体の代表者並びに人権啓発を推進したいという個人の方が集まり、準備委員会・役員会等を経て、今年5月16日に校区総会を開き、正式に信達校区人権啓発推進協議会が再発足しました。

活動を休止していました。ところが、昨年度に「信達校区も活動を…」という声が住民の方から上がりました。このことをきっかけに、岡中・牧野・市場・大苗代の各区長の了解を得、

今後は校区住民のみなさま、ならびに市内各地区の人権啓発推進協議会のご指導・ご協力を得ながら進めていきたいと思っています。

(信達校区委員長

中尾進)

つながり vol.3



このコーナーでは、日ごろ何気ない生活の中で、人権が感じられたり、ふっと暖かな気持ちになるエピソードを紹介します。

優しさのセンサー

所用で電車に乗った時のことである。「優しさを発揮したら後悔する。」そんな声の方へ私の耳は傾いてしまった。大学生と思われる二人の若者の会話だった。「席を譲ろうとしたら、『俺が老人に見えるか!』ってメチャメチャ怒られた。それ以来、絶対に席を譲らんことにした。」

「ふーん・・・」もう一人の若者は、納得したような、出来ないような曖昧な返答ぶりだった。その後何故か気になって、この若者に格言的なことを言わしめた相手を想像してみた。恐らく半世紀以上も人間をしているだろうが、老人と思われたことに腹を立てて怒りを爆発させた。それで気持ちがすつとしたかもしれないが、残念に思う。若者の優しさと勇気を感知することができず、ただ怒りを優先させただけかと。もし、「ありがとう」と言ってその優しさを享受していたなら、席を譲られなくてよいのなら、その感謝の気持ちと配慮の言葉かけがあったなら、若者はまた次へ優しさを発揮出来ただろうし、後悔などせずに済んだはずだ。

私達の身の回りのあらゆる機器にはセンサーがあつて、人が気配りしなくてもよいことが増えて大変便利で快適に過ごせるようになった。しかし、機械には出来ない思いやりの気持ちを劣化させることがあつてはならない。人の心は人の心によつて磨かれる。優しさを受けるから、優しさを伝えることができるといわれている。「絶対に席を譲らない。」と決めた若者には、その心を解きほぐすほどのたくさんのお優しいさ在今后出会うて貰いたい。そしてつないで貰いたいと願わずにはいられない。

「お風呂が沸きました。」そう告げるセンサーにも促され、助けられている日常ではあるが。

(砂川校区 田中千賀子)



正しい認識と思いやりを

公共施設をはじめ人が集まるところには必ず、車椅子マークの駐車場が設置されています。このマークは正式には「国際シンボルマーク」と言います。

これは、障害をもつ人々が利用できる建築物や施設であることを示す世界共通のマークです。障害を持つ人々が住みやすいまちづくりをすることを目的として、1969年に国際リハビリテーション協会により採択されました。

この駐車場は、障害をもつ方々だけでなく高齢者、妊婦、怪我をした人などの移動や施設利用の利便性



国際シンボルマーク

や安全性の向上のために設置されています。

社会の人々がこのことを正しく認識し対応していくことにより和やかな世の中になるような気がします。

国際シンボルマークの場所の駐車に関して、体験したことを2件紹介します。

あるスーパーに買い物に行った時のことです。その日は、車椅子駐車場でも誘導している人が不在でした。しばらくすると、その駐車場に2台の車が進入してきました。後から入った人が先の人に激しい口調で声をかけていました。よくきいていると、「駐車できない車ではないか」ということで口論になったようです。先に入った車の状況を十分理解しないままいさかいになったのでしよう。どのような人が乗っているのか確かめる余裕があればよか

ったと思いました。正しく利用することは大切なことですが、よく確認してから行動に移すことが肝要ではないでしょうか。

別のスーパーでの体験です。8月25日のことです。車椅子駐車場の車から明らかに該当しない人が降りて売り場の方に入っていました。しばらくすると、車に障害者の指定マークを貼りつけた車が入ってきました。ところが、駐車しようとした場所には既に車がとめてあったので、その方は不便な別の場所に駐車されました。

そこで、早速、その店の事務所に赴き先ほど目にしたことをお話しして、コーンでも立てて、困る人がないように配慮してほしいとお願いました。

「店長に伝えます」という女性事務員の返事でした。9月5日同じ場所に行きました。駐車場を見ると以前と変わらない

状況でした。私の願いが、店長まで届いたかどうか定かではありませんが、いざいしてもこの店にとっては大きな事案ではないことは確かです。さみしい社会の一端をみた思いがしました。

(砂川校区 清水真治)



今回は泉南に住む外国の方と、たくさん出会いたいということで初めて仕事が終わった夜の時間の講座開催を試みました。

第1回目(9月28日)は、コロンビア出身で泉南市にお住まいの野寄 マリア イネスさんに、コロンビアの家庭料理を教えてくださいました。

泉南にはたくさんの外国の方が住んでいます。旅行や研修で泉南に来られる方もたくさんいます。言葉はもちろんのこと文化の違いによって、私たちが知らないこともあると思います。

今回の講座が、出会いの場・知らないことを知るきっかけになって欲しいと思います。

10月20・27日にも講座を開催します。人権ふれあいセンターが引き続き、外国の方との出会いの場になり、お互い安心して、住みよいまちになることをめざしていきます。



外国人と共に考える
泉南まちづくり講座

6月3日(日)、文化ホールにおいて、ベトナムが舞台となった、映画『ベトナムの風に吹かれて』が上映されました。
集い当日は500名近くの方にご参加いただき、大盛況に終わりました。
ご参加いただいた方に感想をいただきました。



「ベトナムの風に吹かれて」
を鑑賞して

ベトナムで日本語教師として働く日本人女性が認知症の母との暮らしをつづった物語を、フィクションを交えながら映画化した人間ドラマ。認知症が進行しはじめた母を義兄が施設に預けようとしていることを知り、母をベトナムに連れて来ることを決意する。母は慣れない土地での生活に戸惑いながらも、ベトナムの人々の温かさに触れるうちに、少しずつ笑顔を取り戻していく。そんなある日、母が思わぬケガを負ったことをきっかけに、主人公は介護

の現実に直面する。車やバイクが所狭しと行きかう大通りでは、人々は声を掛け合って支えあい、裏路地では将棋を打つ老人が笑い、カフェのオーナーの母娘は、にこやかに客を迎え入れる。今のベトナムでは、かつての高度経済成長期の日本を思わせる活気であふれている。グローバルリズムに煽られるかのように強まっていく個人主義の価値観。それだけに、主人公が演じる、落ち着きと若々しさがしなやかでたくましく、今の日本がどこかに置き忘れてきているように思わされました。歳をとる程し

る懐の深さが魅力的に感じました。さらに、万事楽天的で、竜宮城にもたええられる住みやすさの一方で、今も残るベトナム戦争の傷跡と大東亜戦争の記憶。そんな、儒教的美德と経済成長のエネルギーが並列する新興国の「現在」が生き生きと描かれていました。身振り手振りで触れ合っ

編集後記

市民のみなさまのご協力により、「きずな」新聞13号を刊行することができました。今回より企画委員会編集委員になり、より多くの方々とつながれたことに感謝しています。

今後もさまざまな活動に参加し、たくさんの方々とつながり、発信できるように努めますので、よろしくお願ひします。

(企画委員会 編集委員)

今後の予定

<人権作品展>
11/21(火)～11/26(日)
場所:イオンりんくう泉南2階 イオンホール

<人権週間コンサート>
11/25(土)午後2時～3時
場所:ふれあいコンサート
出演:Silky Sounds Trio

<人権週間「市民の集い」>
12/3(日)午後1時30分～(開場午後1時)
場所:泉南市立文化ホール
内容:映画『さとにきたらええやん』の上映と監督のお話